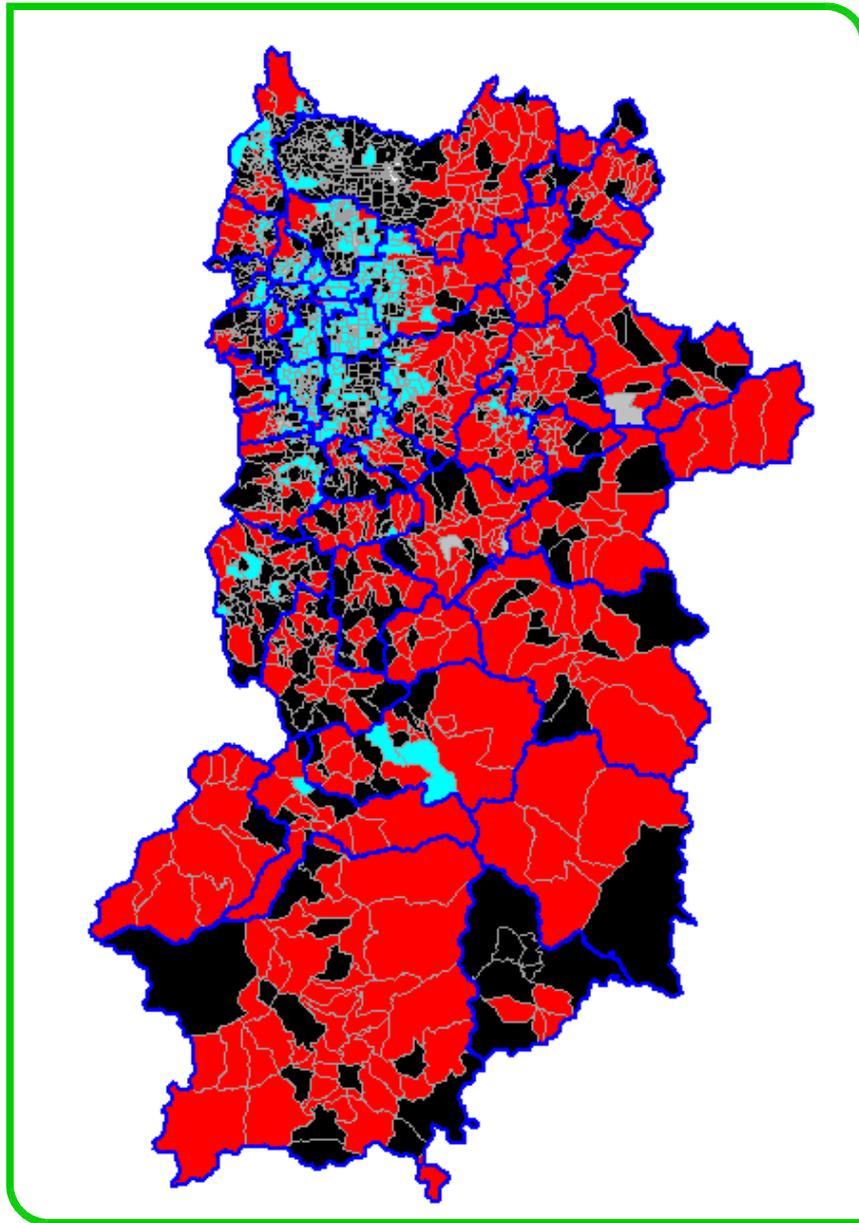


農林・林業集落アンケートによるイノシシ生息状況・被害状況(平成22年度)

1. 平成22年度農業・林業集落アンケート調査によるイノシシの分布



左図は平成22年度の農業・林業集落アンケート調査による、イノシシの分布である。

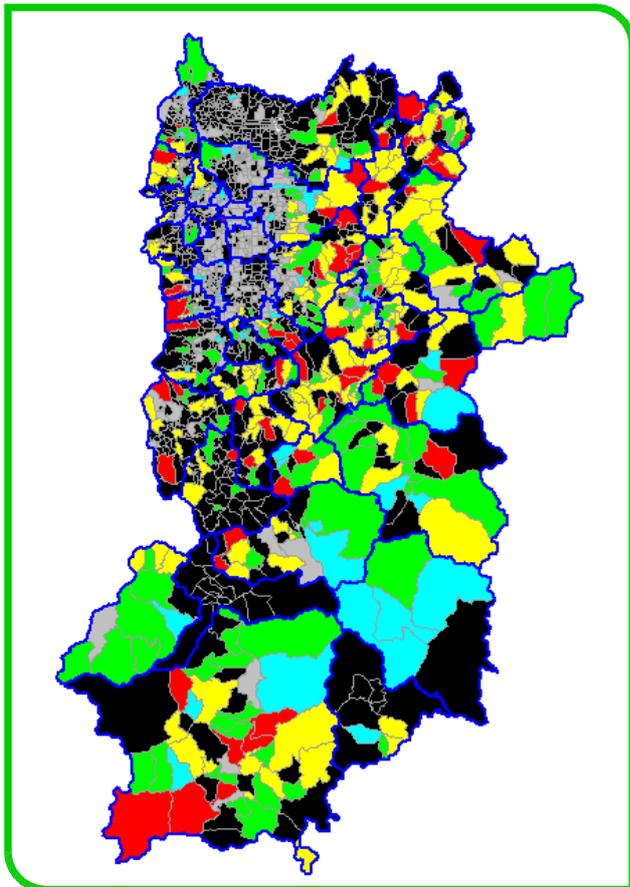
農業集落、林業集落の両方またはいずれかで、イノシシが「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

イノシシが生息できない北西部の一部(奈良盆地)以外の地域を除く、県内の広い範囲からイノシシが「いる」との回答がある。

平成22年度	
■ いる	518集落
■ いない	267集落
■ 回答無し	17集落
■ 回収無し	1006集落
計	1808集落

凡例 図中 青線 旧市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

2. イノシシの農業被害の大きさ



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、農業被害の大きさの意識調査の結果である。

イノシシが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった473集落の内訳は下記の通りである。

被害が「大きい」又は「深刻」と回答しているものが、併せて約53%に達し、イノシシによる農業被害意識は大きいことがわかる。また、「軽微」という回答を併せると、90%近くに達し、非常に多くの地域でイノシシ被害が認識されている。

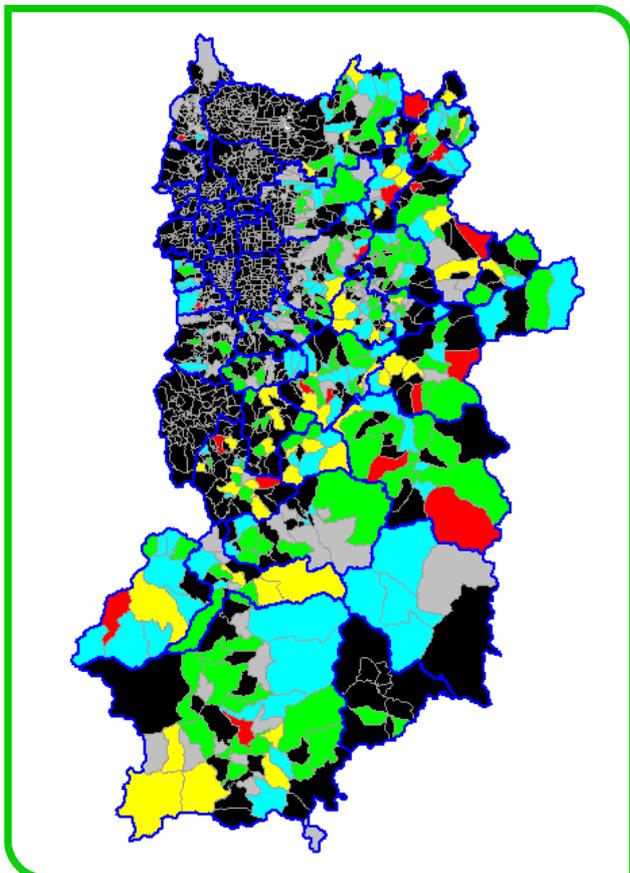
平成22年度

ほとんど無い	54集落 (11.4%)
軽微	166集落 (35.1%)
大きい(生産量の30%未満)	183集落 (38.7%)
深刻(生産量の30%以上)	70集落 (14.8%)
回答数	473集落

参考)平成21年度

ほとんど無い	36集落 (7.6%)
軽微	201集落 (42.7%)
大きい(生産量の30%未満)	156集落 (33.1%)
深刻(生産量の30%以上)	78集落 (16.6%)
回答数	471集落

3. イノシシの林業被害の大きさ



左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、林業被害の大きさの意識調査の結果である。

イノシシが分布しており、かつ本設問の回答があった334集落の内訳は下記の通りである。

被害が「大きい」または「深刻」と回答しているものが併せて約22%あり、軽微なものまで併せると約65%と、多くの地域でイノシシ被害が認識されている。

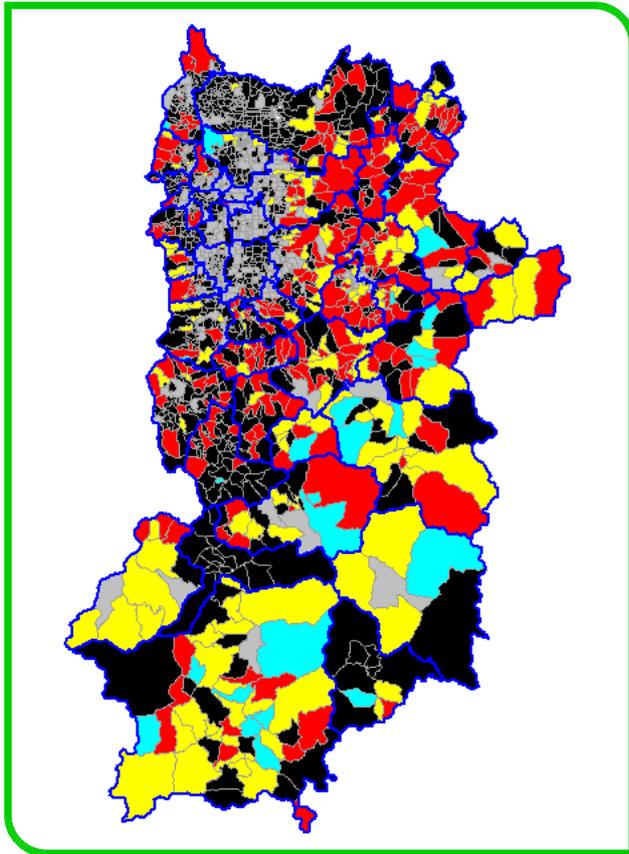
平成22年度

ほとんど無い	116集落 (34.7%)
軽微	145集落 (43.4%)
大きい(生産量の30%未満)	52集落 (15.6%)
深刻(生産量の30%以上)	21集落 (6.3%)
回答数	334集落

参考)平成21年度

ほとんど無い	102集落 (31.7%)
軽微	157集落 (48.8%)
大きい(生産量の30%未満)	50集落 (15.5%)
深刻(生産量の30%以上)	13集落 (4.0%)
回答数	322集落

4. イノシシの農業被害の増減



左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、林業被害の前年と比較した被害増減の意識調査の結果である。

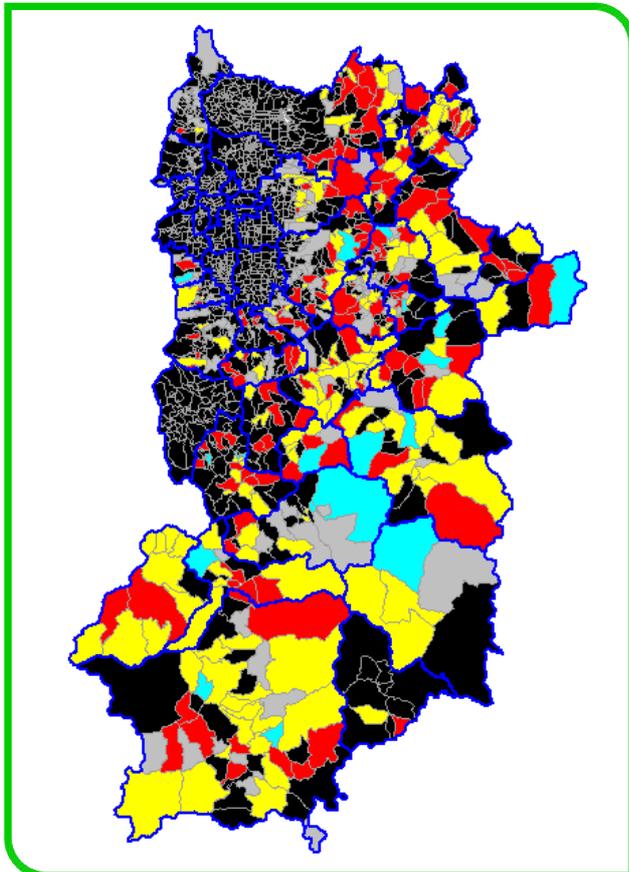
イノシシが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった455集落の内訳は下記の通りである。

被害が前年度と比べて、「増えた」と回答しているものが、約59%にのぼる一方、「減った」と回答しているものは約6%と、被害が減少していないことがわかる。

平成22年度	
増えた	268集落(58.9%)
変わらない	162集落(35.6%)
減った	25集落(5.5%)
回答数	455集落

参考)平成21年度	
増えた	248集落(53.0%)
変わらない	193集落(41.2%)
減った	27集落(5.8%)
回答数	468集落

5. イノシシの林業被害の増減



左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、林業被害の大きさの意識調査の結果である。

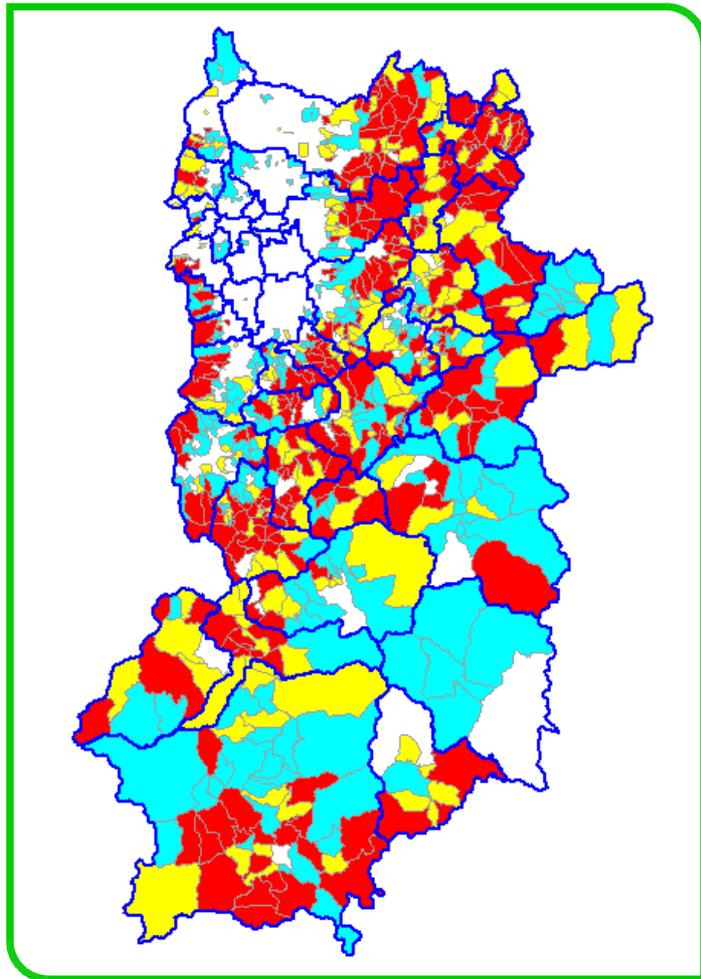
イノシシが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった323集落の内訳は下記の通りである。

被害が前年度と比べて、「増えた」と回答しているものが、約46%となり、「減った」と回答しているものは約6%と、被害が減少していないことがわかる。

平成22年度	
増えた	148集落(45.6%)
変わらない	158集落(48.8%)
減った	18集落(5.6%)
回答数	323集落

参考)平成21年度	
増えた	248集落(47.6%)
変わらない	193集落(46.6%)
減った	18集落(5.8%)
回答数	309集落

6. イノシシの農地・集落周辺への出没動向(平成19～22年度の4年間)



左図はイノシシの農地・集落周辺への出没の4年間の動向である。

毎年集落毎に農地・集落周辺へのイノシシの出没を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。そして、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、-1以下の場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落を色つけた。4年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した4年間、イノシシがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシの農地・集落周辺への出没は、県北東部から県中部、県南西部にかけて多い傾向にあるが、県の東部や南東部等では少ない傾向にある。なお、回答を得た集落のうちよく見る、たまに見る、あまり見ないの割合はほぼ同じであった。

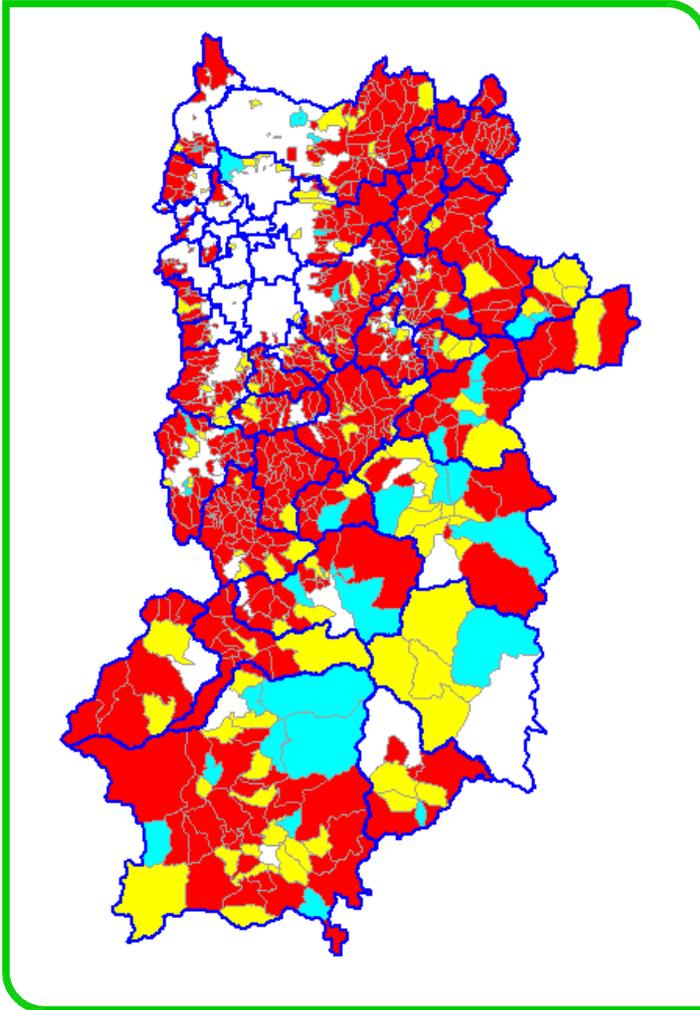
平成22年度までの4年間

よく見る	293集落(38.8%)
たまに見る	215集落(28.5%)
あまり見ない	247集落(32.7%)
回答数	755集落

参考)平成21年度までの3年間

よく見る	265集落(37.6%)
たまに見る	222集落(31.5%)
あまり見ない	218集落(30.9%)
回答数	705集落

7. イノシシの農業被害意識の動向(平成19~22年度の4年間)



左図はイノシシによる農業被害の意識の4年間の動向である。

毎年集落毎に農業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。

そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまり増えている場合)は赤色で、0になる場合(つまり変わらない場合)は黄色で、-1以下の場合(つまり減った場合)は青色で各集落を色つけした。4年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した4年間、イノシシがない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシによる農業被害の意識は、県東部や県南東部等の一部では減ったとなっているところもあるが、全体的には増えており、回答を得た集落のうち76%が増えているという意識であった。

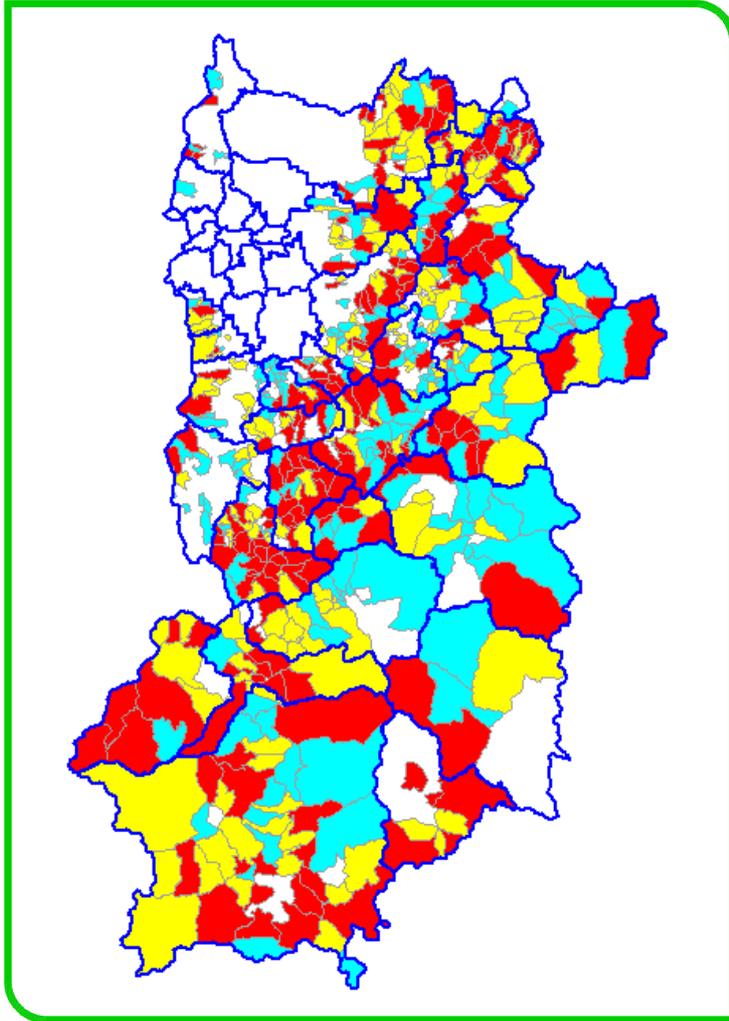
平成22年度までの4年間

■ 増えた	577集落(76.5%)
■ 変わらない	139集落(18.4%)
■ 減った	38集落(5.1%)
回答数	754集落

参考)平成21年度までの3年間

■ 増えた	539集落(76.0%)
■ 変わらない	136集落(19.2%)
■ 減った	34集落(4.8%)
回答数	709集落

8. イノシシの山林・奥地森林での出沒動向(平成19～22年度の4年間)



左図はイノシシの山林・奥地森林での出沒の4年間の動向である。

毎年集落毎に山林・奥地森林でのイノシシの出沒を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。そして、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、-1以下の場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落を色つけした。4年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した4年間、イノシシがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシの山林・奥地森林での出沒は、農地・集落周辺と概ね同様な傾向があるが、農地・集落周辺では少なかった県東部・南東部でもやや多いようである。なお、よく見る、たまに見る、あまり見ないの割合も農地・集落周辺と同様に概ね同じ割合であった。

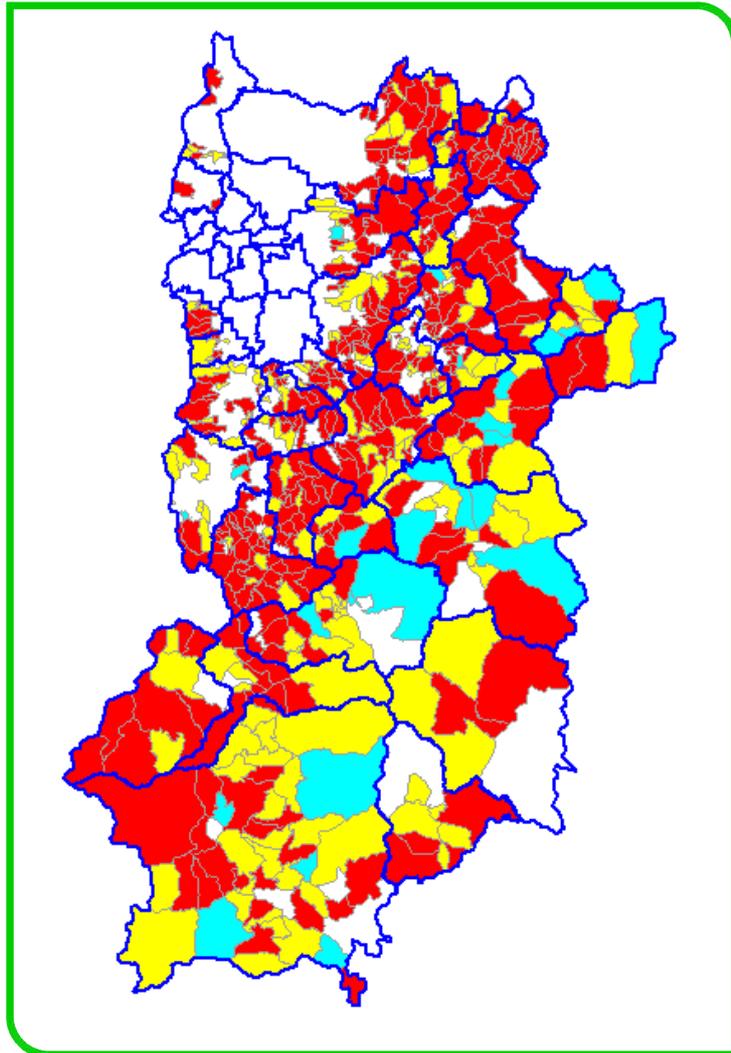
平成22年度までの4年間

よく見る	201集落(34.7%)
たまに見る	194集落(33.4%)
あまり見ない	186集落(31.9%)
回答数	581集落

参考)平成21年度までの3年間

よく見る	174集落(32.2%)
たまに見る	198集落(36.6%)
あまり見ない	169集落(31.2%)
回答数	541集落

9. イノシシの林業被害意識の動向(平成19~22年度の4年間)



左図はイノシシによる林業被害の意識の4年間の動向である。

毎年集落毎に林業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまり増えている場合)は赤色で、0になる場合(つまり変わらない場合)は黄色で、-1以下の場合(つまり減った場合)は青色で各集落を色つけした。4年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した4年間、イノシシがない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシによる林業被害の意識は、被害の大きさでは軽微なものが多いが、増減については全般的には増えており、回答を得た集落のうち約64%が増えたとなっている。なお、県東部・南東部では減ったとしているところもある。

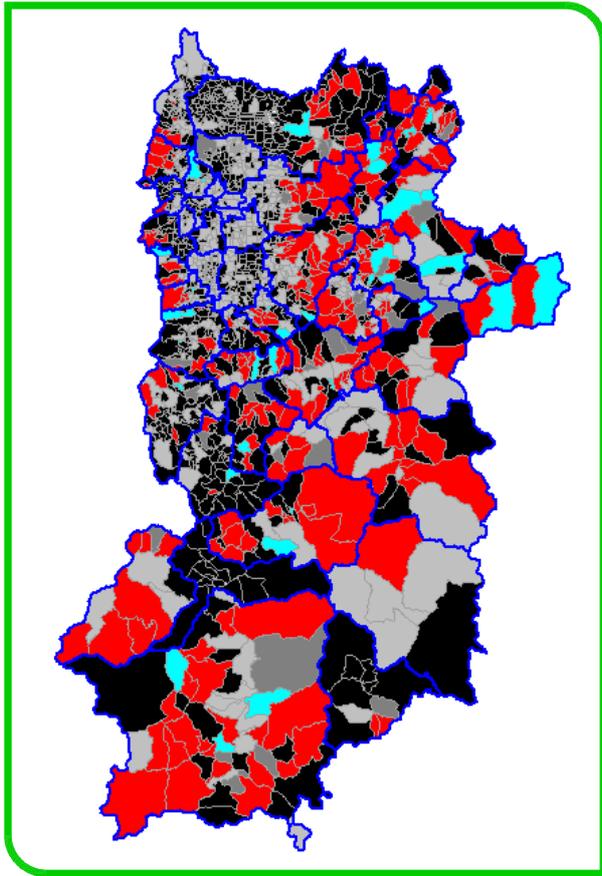
平成22年度までの4年間

■ 増えた	380集落(64.4%)
■ 変わらない	183集落(31.0%)
■ 減った	27集落(4.6%)
回答数	590集落

参考)平成21年度までの3年間

■ 増えた	338集落(62.1%)
■ 変わらない	176集落(32.4%)
■ 減った	30集落(5.5%)
回答数	544集落

10. イノシシの被害対策 侵入防止柵(防護柵)の効果(農業)

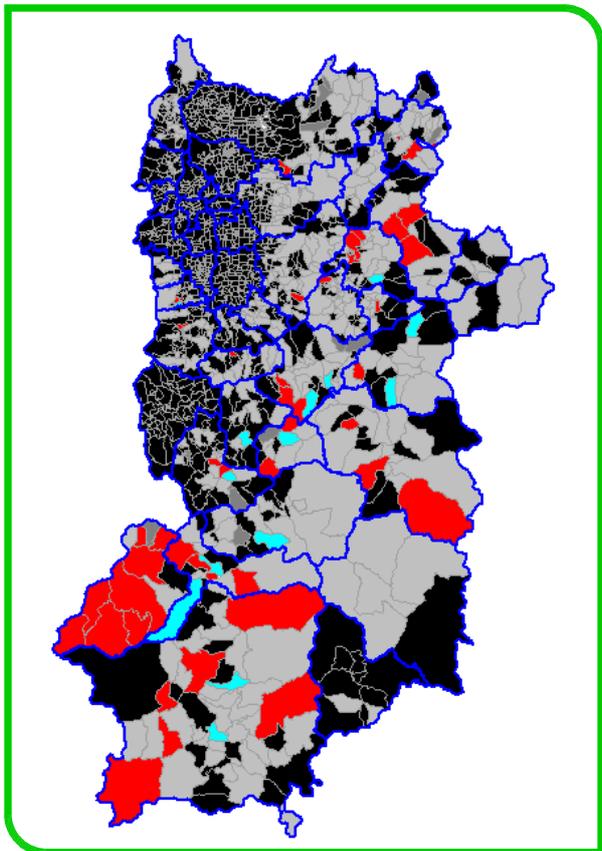


左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、イノシシ侵入防止柵(防護柵)の効果の意識調査の結果である。

回答のうち約88%が効果があったしており、侵入防止柵を設置することによる被害防止効果は非常に高いことがわかる。

■ 効果があった	260集落(87.8%)
■ 効果がなかった	36集落(12.2%)
回答数	296集落

11. イノシシの被害対策 侵入防止柵(防護柵)の効果(林業)



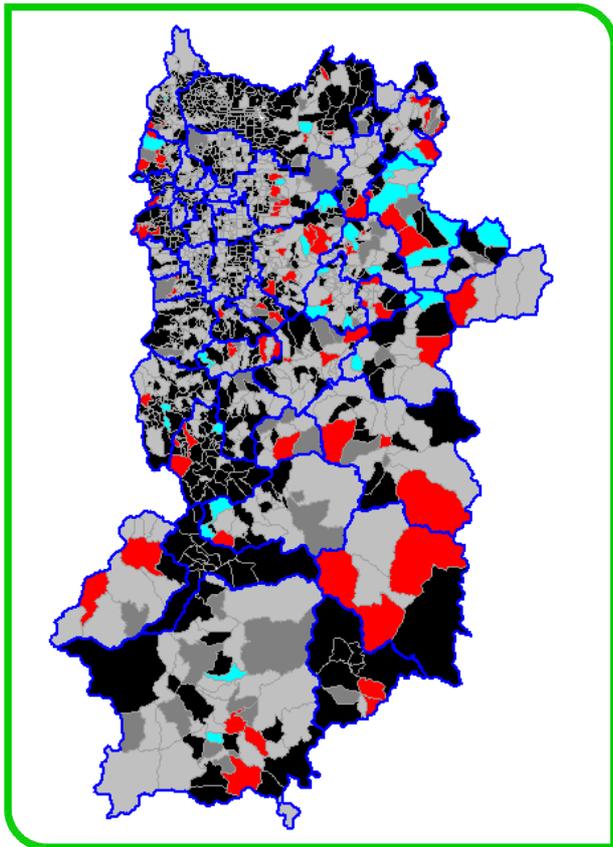
左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、林業被害対策の、イノシシ侵入防止柵(防護柵)の効果の意識調査の結果である。

回答のうち約72%が効果があったしており、侵入防止柵を設置することによる被害防止効果は高いことがわかる。

■ 効果があった	45集落(76.3%)
■ 効果がなかった	14集落(23.7%)
回答数	59集落

なお、農業に比べて、効果があったとの回答がやや少なかった。これは、シカの場合と同様に、農業は居住地近くで営まれることが多く、人目にふれやすいため、その効果も目につきやすいこと。侵入防止柵の効果을最大限發揮させるためには見回り・メンテナンスによる破損の防止が重要であるが、山林・奥地森林で頻繁に見回りを実施できないため、破損が多く生じ、侵入を許すことが農地よりも多いためと考えられる。

12. イノシシの被害対策 有害捕獲の効果(農業)

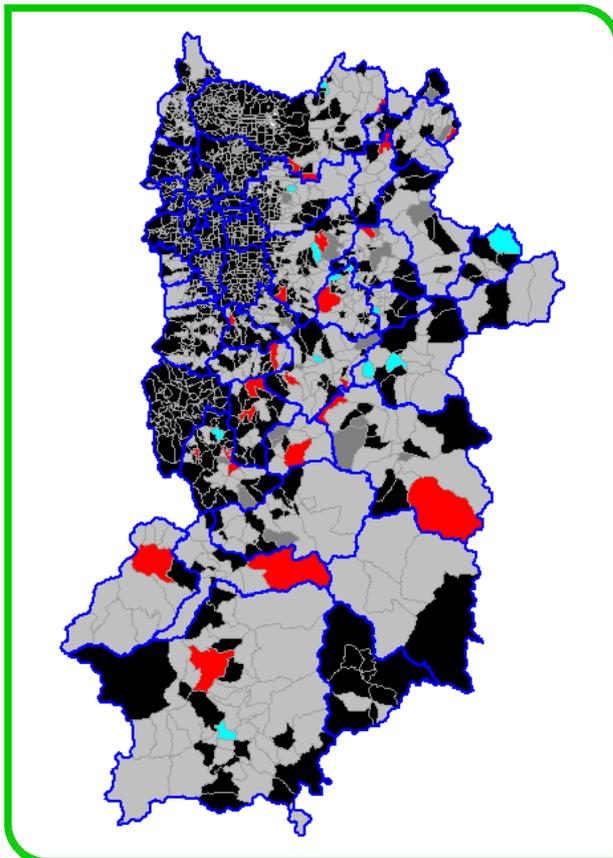


左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

回答のうち約68%が効果があったしており、有害捕獲を実施することによる被害防止効果は高いことがわかる。

■ 効果があった	73集落 (68.2%)
■ 効果がなかった	34集落 (31.8%)
回答数	107集落

13. イノシシの被害対策 有害捕獲の効果(林業)



左図は平成22年度の林業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

回答のうち約66%が効果があったしており、有害捕獲を実施することによる被害防止効果は高いことがわかる。

■ 効果があった	25集落 (65.8%)
■ 効果がなかった	13集落 (34.2%)
回答数	38集落

農業に比べて、効果があったという回答はやや少なかった。これは、シカの場合と同様に、農地で有害捕獲を実施した場合、追い払い効果もあるため、出沒しなくなった場合など人目にその効果は人目につきやすいが、山林では追い払い効果も低く、効果があっても非常に目につきにくいためである。

有害捕獲は、狩猟と併せて、生息数を低減させることで、被害も低減させようとするものである。生息数を低減させるために必要な捕獲数に達しない場合には、その効果が現れにくい。従って被害を低減させるためには更なる捕獲数の増大が必要である。

なお、侵入防止柵等の被害対策と組み合わせることで、より効果的に被害を低減させることが可能であるので、両者は併用しながら実施しなければならない。